

まえがき

本書の目的は、どのような形で俳句がスペイン語圏に伝播し、スペイン語詩にいかなる影響を及ぼしたかを明らかにすることである。

そのような目的を設定するに至った動機についてまず述べておきたい。

一八九九年にアストンが初めて英語圏に紹介したとされる俳句⁽¹⁾が、フランスで流行し始めたのは一九〇六年のことである。ところがスペイン語の詩に俳句が導入されるのは、それからかなり後の一九一九年だという説が、専門家の間にさえかなり広く流布している。一方、筆者はスペインの北東部にあるカタルーニャ地方と縁が深く、滞在の度を重ねるうちに、フランスとスペインの距離的、言語的な近さを肌で実感していた。スペイン側からピレネーの山を登ればフランスへは歩いて行けるし、その辺りの村で多少教養のある人はほとんどフランス語を難なく理解するのである。したがって、フランスで始まったある文学の潮流がスペイン人の耳に入るのに一〇年以上もかかるはずがないと考えた。それに、スペイン人の好奇心の強さと、ネットワークの緊密さからしても、これは奇妙なことである。彼らは話好きで、日ごと馴染みのバルなどに集まり、さまざまなことについて喋る。二十世紀の初め頃、新しい文学を求めていたスペインの詩人たちが、たった一七音節からなる詩の存在を知ったら、それを他の人々に伝えないはずはない。

二十世紀初頭、スペイン詩人が俳句を知っていた証拠を見つけない——これが出発点である。それを探るにはどのような手段があるだろうか？ 思いついたのが手紙と雑誌である。詩人たちの会話を直接聞くことができない以上、彼らの間のコミュニケーションについて調べようと思えば、この二つが一番有効なのは明らかであろう。

さらには時代背景、詩人たちの人生、そして社会状況なども考慮しなければネットワーク研究は不十分なものとなるだろう。また、実際に彼らの作品を鑑賞し、俳句がどのような形で影響を及ぼしたかを検証することも本書の重要な課題となるだろう。

(1) 内田園生は、一八七二年にW・Gアストンが刊行した『日本語文語文法』*The Grammar of Japanese Written Language*の第二版(一八七七年)でHokku〔発句〕が取り上げられていることを紹介している(内田園生『世界に広がる俳句』角川書店、二〇〇五年、一三～一四頁)。筆者が入手できたのは、その第三版(一九〇四年)であるが、内田が言うように、一頁を割いて発句(haikwai-uta〔俳諧歌〕と書かれている箇所もある)について説明がなされている。また、次の三句が例として挙げられている。「霧の海何処へ富士は沈みぬる」「人にこそ年はよりぬれ春の草」「夕立や田を見めぐりの神なれば」したがって英語で俳句が初めて紹介されたのは、厳密に言うで一八七七年である。しかし、この本はあまり注目されなかったようで、英語圏の俳句受容史の中で言及されることはほとんどない。本格的な俳句の紹介は、アストンの『日本文学史』(一八九九年)を待つこととなった。

目次

まえがき

序章	パスの功罪	3
----	-------	---

第二章	俳句受容の玄関口——パリとロンドン——	13
-----	---------------------	----

一	パリのスペイン詩人たち	14
---	-------------	----

1	雑誌『メルキュール・ド・フランス』とファン・ラモン・ヒメネス	15
2	カタルーニャの先駆者ジュゼップ・カルネーとアウジェニ・ドルス	19
3	デイエス・カネドと荒木田守武の句	22
4	エンリケ・ゴメス・カリージョの「詩の心」	25
5	アントニオ・マチャードの三行詩	29
6	パリにおけるスペイン語詩人のネットワーク	32

二	ロンドンとスペイン詩人	34
---	-------------	----

1	アストンの『日本文学史』と『ラ・エスパニーニャ・モデルナ』	34
2	ファン・ラモン・ヒメネスと『サ・ポエトリー・レヴュー』	36

第二章 スペインの三大詩人と俳句——マチャード、ヒメネス、ロルカ——……………52

一 アントニオ・マチャード——新しい詩を求めて……………52

- 1 「日本の詩人」アントニオ・マチャード……………52
- 2 「ロマンセ」の故郷からバリ、そしてマドリードへ……………53
- 3 『孤独』から『孤独、回廊、その他の詩』へ——俳句が生んだ変貌——……………55
- 4 『カステイリヤの野』——風景描写の発見——……………56
- 5 『新しい歌』——新しい詩の手掛かりを求めて——……………64

二 ファン・ラモン・ヒメネス——俳句と「裸の詩」……………77

- 1 詩人の原点——セビリヤの「アテネオ」——……………77
- 2 発信者ヒメネス……………80
- 3 強まる俳句性……………82
- 4 マドリードへ——新たな世界の展開——……………85
- 5 クラウゼ哲学、自由教育学院との出会い……………86
- 6 『牧歌集』の「見立て」……………89
- 7 帰郷——『プラテロと私』——……………92
- 8 「学生寮」——セノビアとの出会い——……………97
- 9 『新婚の詩人の日記』——「裸の詩」の始まり——……………99
- 10 より俳句的に——『永遠』と『石と空』——……………103
- 11 その後のヒメネスと俳句……………108
- 12 栄光と終焉……………112

三 フェデリコ・ガルシア・ロルカ——俳句をめぐる葛藤……………113

1	詩人の出発点	113
2	ミゲル・ピサロ	114
3	「騎乗の歌」	116
4	「騎乗の歌」以前	118
5	俳句と三つの詩集	128
6	①『組曲』／②『歌集』／③『カンテ・ホンドの歌』	
6	ロルカの俳句観	148
7	「学生寮」入寮後の展開	154
8	実りと突然の終焉	155
第三章 俳句伝播の拠点「学生寮」……………176		
一	知の最前線としての学生寮……………176	
二	学生寮の母体——「自由教育学院」……………177	
三	俳句と学生寮周辺の人々……………179	
1	「特別寮生」ファン・ラモン・ヒメネス	180
2	ロルカと「アナグリフォ」遊び	181
3	マチャード一家と「自由教育学院」	186
4	「特別寮生」ホセ・モレノ・ベリヤ	187
5	エンリケ・デイエス・カネド	188
6	①初期の詩と俳句／②ネットワークの要／③ふたたびマドリッドで 遅咲きの詩人ホルヘ・ギリエン	203
7	若い世代と俳句——エミリオ・ブラドス——	209

8	「接着剤」としてのマヌエル・アルトラギレ	215
9	「農村詩人」ホセ・マリア・イノホサ	222
10	そのほかの学生寮周辺の人々	225

第四章 「ウルトラリスモ」と「グレゲリア」の役割

一	「ウルトラリスモ」とは	233
二	「ウルトラリスモ」と俳句	235
1	ウルトラリスモ詩人ギリエルモ・デ・トーレ	236
2	アントニオ・エスピナの「版画」	238
3	フランシスコ・ビギの「僕の初めてのハイカイ」	240
4	アドリアノ・デル・バリエの「七色のハイカイ」	242
5	「ウルトラリスモ」の雑誌と俳句	244
三	ラモン・ゴメス・デ・ラ・セルナと「グレゲリア」	246
1	「グレゲリア」——革新的短詩——	248
2	イマジズムとグレゲリア	252

第五章 カタルーニヤの詩人・文化人と俳句

一	カタルーニヤ語の位置づけ	259
二	ハイカイの紹介者ジュゼップ・カルネー	260
三	アウジェニ・ドルスの役割	262
四	ジュゼップ・マリア・ジュノイと「ハイカイ」	267

五	カタルーニャの国民的詩人ジュアン・サルバットII パバサイト	276	
結語		287	
主要参考文献一覧（欧文	291／邦文	310）.....	291
あとがき			
索引			

序 章 パスの功罪

スペイン語圏に俳句を初めて導入したのはメキシコの詩人ホセ・ファン・タブラーダだと、ごく最近まで広く信じられてきた。いや、今でもなお、日本内外のスペイン文学研究者の中にはそう思っている人たちが、少なからず存在する。

そうした誤解のもっとも大きな原因は、この説を唱えたのが、メキシコが誇るノーベル賞詩人オクタビオ・パスだったことである。パスの圧倒的な存在感が、その言説に有無を言わせぬ權威を与えてしまったようだ。

実はパスがそう言い出す以前には、スペイン語圏で、俳句の導入などという周辺的な問題に眼を向ける文学者はほとんどいなかった。英語圏やフランス語圏での俳句の受容に比べれば、そうした研究は皆無に等しく、まさにパス自身が嘆くように、スペイン語圏のいつものがらの文学研究の貧困をそこに「⁽¹⁾見ることができる。その空白に一石を投じたパスの功績は、たしかに大きいと言わざるを得ない。」

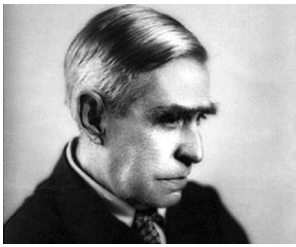


図1 ホセ・ファン・タブラーダ

一九四五年、タブラーダが他界したとき、この詩人が国際的にはほとんど無名であつたにもかかわらず、パスはニューヨークで「ホセ・ファン・タブラーダの航跡⁽²⁾」と題する追悼スピーチを行った。故国の詩人の再評価を国際的なレベルで試みたのである。この中でパスは、一九一九年の『ある日……』⁽³⁾ *Un día...* と、一九二

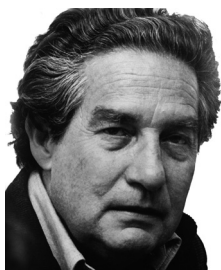


図2 オクタビオ・パス

二年の『花瓶』*El jarro de flores*の二冊の詩集によって、「タブラーダはスペイン語に日本のハイクを導入⁽⁴⁾」したと述べた。この断定が、「スペイン語の俳句の先駆者」タブラーダ⁽⁵⁾という図式を多くの人々の頭の中に刻みつけることになった。

パスによれば、タブラーダの詩は日本の俳句と同様、短いながらも単独で一つの世界をなしているという。その例として挙げられている作品の一つに、「柳」*Un saúz*がある。

Tierno saúz

casi oro, casi ámbar,

casi luz...

しなやかな柳

まるで金、まるで琥珀

まるで光⁽⁶⁾……

パスに言わせれば、この詩は表現したいことをすべてを言わずに「暗示」する「ハイク」であり、日本の墨絵のごとく、「ドアを開け、そこを通して我々を誘⁽⁷⁾」うだけで、「すべてを言い終えているわけではない」。風に揺れる、柔らかな薄緑色の細い柳の枝に、太陽の光があたってきらきらと輝いている。その様は、さながら「緑色の液状の景色⁽⁸⁾」である。枝は「金」色から「琥珀」色、「光」の色と徐々に透明に近づく。枝の素材も硬い鉱物から、樹脂の化石、そして触れることのできない「光」へと、非物質化していく。Casi（まるで）という単語を繰り返すことで、次々と認識が更新される時間の感覚が表現されている。たしかに美しい詩である。パスはよほどこの「ハイク」が気に入っていたようで、後の「俳句の伝統⁽⁹⁾」というエッセイでもこれを再び取り上げ、

「そのもつとも幸福な瞬間には、タブラーダの客観性は彼の目が見出すすべてに「出現」⁽¹⁰⁾という宗教的な性格をあたえる」と、コメントを添えているほどである。

だがパスは、このようにタブラーダの詩を高く評価する反面、物足りなさも感じていた。英語圏に俳句を広めた鈴木大拙やR・H・ブライスと同様、パスもまた俳句を禅とを結びつけて考えていたからである。その後長きにわたってスペイン語圏で受け継がれることになるこの見方は、「日本文学の三つの時代」⁽¹¹⁾の中で詳述されている。パスは、目新しいものに次から次へと目移りするタブラーダを「詩のドン・ファン」⁽¹²⁾と呼んだ。その詩には芭蕉の句に見られるような、禁欲的な禅の影響はみられず、基本的に深みに乏しい「言語的発明」⁽¹³⁾にすぎないと見たのである。

それではパスはなぜ、そのようなタブラーダの詩を、追悼のスピーチはともかく、その後何度も取り上げて、その功績を強調し続けたのだろうか。

一つの可能性として、おそらくパスは、英語圏やフランス語圏で脚光を浴びる俳句をスペイン語圏に導入したのが、パスの祖国メキシコの詩人であると、文学史に刻みつけたかったのではないだろうか。実際、パスのその後の文章を見ていくと、ちょうど前述の「俳句の伝統」あたりから、タブラーダ先駆者説の歯切れが悪くなっていくのがわかる。実はタブラーダ以前に、ファン・ラモン・ヒメネスやアントニオ・マチャードらスペインの詩人たちが、すでに俳句的な短詩を書いていることに、彼があとで気づいたからであろう。しかし、それでもなおパスはその事実があらさまにならぬように苦心していたようだ。

たとえば「俳句の伝統」の中でパスは、「タブラーダの影響はたちまち現われ、スペイン語全体に広がった」⁽¹⁴⁾と述べる。すなわち「一九二〇年から一九二五年にかけて、多くのラテンアメリカの詩人の若い頃作品には、タブラーダが手本となっていることが見て取れる」。そして「ファン・ラモン・ヒメネスには日本的な時期があ

り、アントニオ・マチャードにもそのような時期があった」と書く。こう並べられると、ファン・ラモン・ヒメネスとアントニオ・マチャードが、中南米の詩人たちよりも後にタブラーダの影響を受けて俳句を書いたかのような印象を受ける。しかし実は、ヒメネスやマチャードは、一九二〇年以前に俳句を彷彿させる詩をいくつも書いているので、二人の詩とラテンアメリカの詩人の詩の間には、パスの言うような前後関係は存在しない。そしてパスは、まるで念を押すかのように、「彼ら〔ヒメネスとマチャード〕はタブラーダの詩を読んでいたのだろうか？ 知らなかったとは考えにくい」と述べる。このあいまいな言い方は、意図的かどうかは別として、読者に誤解を与えかねない。⁽¹⁷⁾

いずれにせよ、それまでないがしろにされていたスペイン語圏のハイクに、研究者や詩人や一般読者の注意を向けさせたのは、パスの大きな貢献である。また、ハイクと禪を結びつける考え方も、ハイク研究の一つの流れとなっているが、その是非は別として、これもパスの論文に起源を持つものである。

パス以後、スペイン語圏のハイクについて、さまざまな研究がなされた。その中には、タブラーダに関するパスの説をはっきりと否定するものも含まれている。以下に、本書と関連の深い主要な先行文献を紹介しよう。

一九五八年のエンマ・スサナ・スペラッティ・ピニエロの「バリエーインクランと芭蕉の『俳句』」⁽¹⁸⁾では、スペインの「九八年世代」を代表する作家の一人ラモン・デル・バリエーインクランの作品『純潔な女王の笑劇と放縦』*Farsa y licencia de la Reina Castiza*（一九二〇）に芭蕉の「古池や蛙飛び込む水の音」の句からインスピレーションを得た一節が含まれていることが指摘されている。まず、この論文の発表が、パスが「古池や……」に触れた「松尾芭蕉の詩」⁽¹⁹⁾という論考の翌年であることと、スペラッティが同句の訳にパスの訳を用いていることから、パスの影響力の強さがうかがわれる。また、一九二〇年の戯曲にまで俳句の痕跡が見られるということは、俳句が当時すでにかなりスペイン文学界に浸透していたことを示すと言える。スペラッティの論文は短い

ものだがその意味でも大変興味深い。

一九六八年、ゲイリー・L・ブラウアーは「スペイン語圏の詩における日本の俳句についての短い解説」⁽²⁰⁾で、中南米とスペインのハイクを紹介した。いずれも一七音節の俳句の形式に倣って作られた三行詩である。ブラウアーによると、タブラーダによって導入されたハイクが、中南米のみならず、「スペインへ広がり」⁽²¹⁾、主にモデルニスモやウルトラリスモの詩人たちがこの形式を用いて詩を書いたという。ブラウアーにとってハイクとは、あくまで日本の俳句の形式にあてはめて書かれた詩であつた。

フェルナンド・ロドリゲス・イスキエルドの『日本の俳句』⁽²²⁾（一九七二）は、スペイン語圏における俳句研究の基本文献とみなしうる大著である。バジル・H・チェンバレン、R・H・ブライス、ポール・ルイ・クーシューなど、それまでの英語やフランス語の俳句研究が網羅的に紹介されている。また、岩波書店の『日本古典文学大系』など信頼のおける文献に基づいて、江戸時代から現代にいたるまでの句の訳を数多く収めている。スペイン語圏への俳句の伝播については、タブラーダが導入者だと断定することは避けつつも、パスの論説の主旨をほぼそのまま踏襲している。

一九七三年、ルイス・アントニオ・デ・ピリエナは、「俳句」、その魅力と三人のスペイン語詩人⁽²³⁾を発表する。彼はマチャード、ヒメネス、ロルカ、および「グレゲリア」という短詩を「発明」したゴメス・デ・ラ・セルナら、スペイン詩人に対する俳句の影響を論じて、従来の研究を大きく発展させた。彼は形式よりもむしろ、俳句からのインスピレーションに着目したのである。それは結果として、スペイン語圏への俳句導入者がタブラーダであるというパスの説を完全に覆すことにもなった。

一九七五年のバーバラ・ダイアン・カンテラ・コンズの博士論文『モダニズムから前衛へ——スペイン語圏の詩における俳句の美学』⁽²⁴⁾は、一九〇〇年ごろから一九三〇年ごろまでのスペインとメキシコの詩、新聞や雑

誌の記事や論説を対象として、スペイン語詩人がどのようにハイクをとらえているかを考察し、彼らの「美学」を探っている。ここではもはやパスの「タブラーダ＝パイオニア」説への疑問は、ほとんど何の抵抗もなく提示されている。

一九八〇年にヨン・テ・ミンが発表した「ロルカ、東洋の詩人」⁽²⁵⁾は、一九一九年以降のスペイン語の雑誌や新聞などの記事を渉獵して、スペインへの俳句の導入と普及の歴史を明らかにし、ロルカの詩への俳句の影響をめぐりに説明している。ミンは、一九二〇年代前半という早い時期にスペインで俳句が大流行したということを突き止めている。

一九八五年に出版されたペドロ・アウリオン・デ・アロの『スペインにおける俳句』⁽²⁶⁾および二〇〇二年に出されたその増補版は、⁽²⁷⁾スペインの俳句実作者や研究者の間で広く読まれているが、少なからぬ問題点を含んでいる。カバーしている時代の長さや詩人の数では群を抜いているが、その論は先行研究の不完全な援用が多く、自説の部分は根拠のない印象論に終始している。パスの「タブラーダ＝先駆者」説を攻撃するが、その拠り所が示されておらず、説得力に乏しい。

一九八七年、ヘスス・ルビオ・ヒメネスが「俳句の普及——デイエス＝カネドと雑誌『エスパニーヤ』」⁽²⁸⁾を発表した。デイエス＝カネドと『エスパニーヤ』誌がスペインでの俳句の普及に大きな影響を与えたことを明らかにした労作である。

リカルド・デ・ラ・フエンテによる一九九〇年の論説、「アントニオ・マチャードにおけるハイク」⁽²⁹⁾と、一九九二年に出されたスペイン語への翻訳句集『ハイジン』⁽³⁰⁾ *Haijin* の前書⁽³¹⁾は、短いながらも、この時期までの俳句研究が要領よくまとめられている。特に前者にはマチャードと俳句との出会いに関する考察があり、本書執筆の上で非常に参考になった。

二〇〇四年のジョルディ・マス・ロペスによる『ジュゼップ・マリア・ジュノイとジュアン・サルバット＝パ
バサイト——俳句への二つのアプローチ』⁽³¹⁾は、二人のカタルーニャ語詩人の作品における俳句の受容につ
いての研究である。さらに、ジョルディ・マス・ロペスとマルセル・オルティンが二〇〇九年に『アルス・マル
ジャス』誌上で発表した「カタルーニャ文学における最初の俳句の受容」⁽³²⁾は、カタルーニャにおける俳句の伝播
についての研究である。同論文もスペインへの俳句の導入を考える上で、カタルーニャ語の詩が果たした役割を
重視しており、その意味で参考になる点が多かった。

- (1) Octavio Paz, "La Tradición del Haiku", *Sendas de Oku*, Tokio: Shinto Tushin, 1992, pp. 9-22. への論説が最初に発表されたのは一九七〇年である。
- (2) Octavio Paz, "Estela de José Juan Tablada", *Las Pernas del Omo*, Barcelona: Editorial Seix Barral, 1990.
- (3) この詩集のタイトル・ページには、「カラカスにて、女流詩人シヨ（加賀の千代を指す）と詩人芭蕉によって愛された日陰で」と書かれているが、ハイクという文字はどこにもない。また、この詩集の副題は「poemas sintéticos」であるが、スペイン語のハイクを論じる上で重要な表現なので、これが何を指し、これをどう訳すべきかは第二章第二節7で論じる。なお本書では原則として、日本の俳句を意識して書かれた外国語の短詩をハイクと表記する。ただし、外国の詩人、著者が haikai, haikā などを使っている場合にはそれを尊重しハイカイとする。haiku, haikut, jaiku, jaikut などのバリエーションは原語の発音にかかわらずハイクに含める。haikai, haikā, hai-kai, haï-kai, hai kai, hai kai についても同様である。
- (4) Paz (1990), *op. cit.*, p. 62.
- (5) 一九〇二年、タブラダがスペイン語のハイクを試みたという説がある。しかし、その作品が収められた『中国の船』*Nao de China* はおそらく出版されておらず、原稿自体も焼失したと云う。Jeffrey Johnson, *Haiku Poets in Twentieth-Century Avant-Garde Poetry*, Lanham, Maryland/Plymouth, England: Lexington /Rowman & Littlefield Publishing Group, 2011, p. 157. への説は、根拠が希薄であるため本書では採用しない。

- (6) 筆者訳。以下、翻訳者名が明記されていない場合は、筆者訳。
- (7) Paz (1990), *op. cit.*, p. 63.
- (8) *Ibid.*, p. 63.
- (9) 一九五七年、パスは林屋永吉とともに『奥の細道』のスペイン語訳を上梓した。「俳句の伝統」は、一九七〇年にそれが再版されたときに添えられた論説である。
- (10) *aparición* (出現) という語はイタリックで書かれているので、パスはこの語に特別な意味を持たせたかったに違いない。西洋の文学や絵画においては、「出現」とは超自然的なものが現れることを指す場合が多い。たとえばギュスターヴ・モロー (Gustave Moreau) の水彩画「出現」*L'apparition* には、ユダヤ王ヘロデの義理の娘サロメの前に、洗礼者ヨハネの首が現れる様子が描かれている。この絵には不気味さが漂うものの、多くの場合、「出現」は川本皓嗣が述べるように「不吉なものどころか、神々しいまでに美しく輝かしいものの出現」である (川本『アメリカの詩を読む』岩波書店、一九九八年、二〇六―二〇七頁)。パスも、タブラーダのハイクにもそのような性質の「出現」があると示唆しているのである。
- (11) Octavio Paz, “Tres momentos de la literatura japonesa,” *Las Perras del Olmo*, Barcelona: Editorial Seix Barral, 1990.
- (12) *Ibid.*, p. 62.
- (13) Paz (1992), *op. cit.*, p. 12.
- (14) *Ibid.*, p. 19.
- (15) 以下、単に「マチャード」と書いた場合はアントニオ・マチャードを指す。
- (16) Paz (1992), *op. cit.*, p. 20. 以下、引用文中の「」は筆者による補注である。
- (17) この部分は「タブラーダを読んでいたのだろうか？」(¿Habían leído los poemas de Tablada?) 過去完了時制 (*habían leído*) を用いて書かれており、文章の流れからいくとヒメネスとマチャードが俳句的な詩を書く前に読んでいたのだろうか。ということになるが、はっきりとそうは断言せず何の前だったのかを曖昧なままにしている。
- (18) Emma Susana Speratti Piñero, “Valle-Inclán y un Hai-ku de Bashō,” *Nueva Revista de Filología Hispánica*, XII-1 (enero-marzo), 1958.

- (19) 「松尾芭蕉の詩」"La poesia de Matsuo Basho" は、一九五七年、バスが林屋永吉と共にスペイン語に訳した『奥の細道』を上梓したときに寄せた論考である。
- (20) Gary I. Brower, "Brief Note: The Japanese Haiku in Hispanic Poetry", *Monumenta Nipponica* XXIII, Numbers 1-2, Tokyo: Sophia University, 1968.
 ブラウアーは、論文中でバスの名前は挙げていないが、この論文の発表された一九六八年以前のバスの論文「ホセ・フアン・タブラーダの航跡」を参考にしていてと考えられる。その理由の一つ目は、タブラーダを「有名で、多才な」メキシコ詩人だと形容していることである。ブラウアーがこの論文を書いた頃、タブラーダは決して有名ではなかったし、詩人としての評価も高くなかった。にもかかわらず、ブラウアーがそのようにみなしているのは、バスの高評価の受け売りだろうと考えられる。さらに、タブラーダの佳作の一つとしてブラウアーが挙げている作品が、バスの論文中に含まれている。
- (21) Brower, *op. cit.*, p. 188. ブラウアーによると、タブラーダが一八九九年に出した『詞華集』*El Florilegio* においてもハイクが含まれているというが、これは誤りである。タブラーダ研究者である太田靖子によると、「タブラーダが最初に俳句について言及し、俳句の紹介をするのは、一九一四年に出版した『広重』(*Hiroshigue*) においてである」(太田靖子『俳句とジャポニスム』思文閣出版、二〇〇八年、三一頁)。
- (22) Fernando Rodríguez-Izquierdo, *El Haiku Japonés*, Madrid: Edición Hipérion, 1994. (初版は一九七二年)
- (23) Luis Antonio de Villena, "De haiku: sus seducciones y tres poetas de lengua española", *Prohemio*, IV 1-2, 1973, pp. 143-174.
- (24) Barbara Dianne Cantella Konz, *From Modernism to Vanguard: The Aesthetics of Haiku in Hispanic Poetry*, Austin: The University of Texas, 1975. Ph. D. dissertation.
- (25) Yong-Tae Min, "Lorca, poeta oriental", *Cuadernos Hispanoamericanos*, 358, 1980, pp. 129-144.
- (26) Pedro Aulón de Haro, *El Jaiku en España*, Madrid: Editorial playor, 1985.
- (27) Pedro Aulón de Haro, *El Jaiku en España*, Madrid: Ediciones Hipérion, 1985, 2002.
- (28) Jesús Rubio Jiménez, "La difusión del haiku: Diez-Camado y la revista *Español*", *Revista de Investigación Filológica*, XII-

XIII, 1987, pp. 83-100.

- (29) Ricardo de la Fuente, "El haiku en Antonio Machado", *Antonio Machado hoy*, vol. II, Sevilla: Alfar, 1990, pp. 393-403.
- (30) Ricardo de la Fuente, Traducción, introducción y notas, *Haïjin: Antología del jaiiku*, Madrid: Poesía Hipertón, 1992.
- (31) Jordi Mas López, *Josep Maria Junoy i Joan Salvat-Papasseit: dues aproximacions a l'haiku*, Barcelona: Publicacions de l'Abadia de Montserrat, 2004.
- (32) カタルーニャ語というのはスペイン語同様、ロマンス諸語のひとつで、バルセロナを中心とするスペインのカタルーニャ地方などで用いられており、スペイン語とはきわめて近い関係にある。詳しくは、第五章第一節を参照。
- (33) Jordi Mas López i Marcel Ortín, "La primera recepció de l'haiku en la literatura catalana", *Els Marges*, núm. 88, 2009, pp. 57-82.

あとがき

「佳子、これすごいよ」と夫がある日一冊の本を差し出した。川本皓嗣著『日本詩歌の伝統』であった。カタルーニヤ語研究者で当時カタルーニヤ語辞典の編纂をしていた夫がどのようにしてこの畑違いの著書を読むことになったのか、いまだに不思議に思う。いずれにせよ、その出会いのおかげで今、この一文を書いていると言っても過言ではない。さらに、ここに至るまでにいくつかの大事な縁があった。

次男が入学した中学校には保護者のための俳句会があった。高浜虚子の孫で、ホトトギスの主宰であった稲畑汀子先生が、令息の廣太郎さん（現ホトトギス主宰）がその中学校に入学したのを機に始められたものである。私は常々、俳句はなぜたったの十七文字で詩たりえるのか、疑問に思っていたので、その秘密の一端がわかるかもしれないと思って、その末席に加えていただいた。当時稲畑先生は、直接会にはお見えにならなかったが、選句はなさっていたので、まったくの素人でも自作を大家に見ていただけという有難い句会であった。雰囲気はよかったし、句会のやり方などもよくわかった。しかし、私がつかみたいと願っていたような俳句の謎への糸口は見つからなかった。季語とは俳句のなかでいったいどんな役目をするのか。切れ字はなんのためにあるのか。心の中のものもやは増すばかりだった。どうやら句会での実作にそうした問題の答えを求めるのは、お門違いだったようだ。

とはいうものの、俳句についての理論書を何冊か読んでも、一向に解答は見つからない。そんなとき巡り合ったのが先の本であった。そこには、「たった十七字という極端に切りつめた枠組みのなかで、俳句はいかにして詩でありうるか」について、ストンと腑に落ちる説明がなされていた。陳腐な言い方になるが、まさに目の前の

霧が晴れた心持であった。

その頃私は何か新しいことを始めたいと思い、それまでかかわっていたスペイン語やカタルーニャ語ではなく英語系の大学院に入り、修士論文のテーマを搜しているところだった。英語圏における俳句について何かできるかもしれないと思い始めたものの、なかなか具体的な手掛かりをつかめないでいた。他方、自分で決めたにもかかわらず、それまで学んできたスペイン語やカタルーニャ語を研究に活かすことができないことに寂しさも感じていた。

そんなある日、ふと、あの本の著者の川本先生は現在どこで何をしていらっしやるのだろうか？ と思った。インターネットで検索してみると、なんと偶然。神戸の自宅から電車で十五分のところの大学の学長をされているではないか。ひよっとしたら講義を聴講させていただけるかもしれない。しかし、見ず知らずの、他大学の一介の大学院生がそんなことをお願いしていいものだろうか。少し逡巡したが、思い切って手紙を書いてみた。すると間もなく、川本先生から歓迎するというメールを頂いたのだった。

何度か授業に出席した後、修論について相談をする機会が与えられたときのことである。私が英語圏の俳句について何か研究したいと話すと、私のバックグラウンドをご存じの先生は、フランス語圏や英語圏での俳句研究は進んでいるが、それに比べスペイン語圏での研究は手つかずだといえるので、そちらについて研究するほうが良いだろうというアドバイスをくださった。俳句研究に、スペイン語、カタルーニャ語、そして少しばかりかじったフランス語を役立てることができる。私にとってこれ以上の喜びはあり得なかった。

なんとか修士論文を書き終えたあと、川本先生のおられた大手前大学の博士課程後期に入学し、スペイン語圏での俳句研究についての書物をさらに読み進めていくと、誰も足を踏み入れたことのない原野がachiこちにあつた。いくつかの立派な研究と、それをおおむねなぞっただけの論文があった。日本語のできないスペイン人研究

者によるスペインにおける俳句研究、haiku や hokku と題された詩だけを対象としたスペインへの俳句の導入研究など、納得がいかないものも少なくなかった。なかでも一番驚いたのは、ヨーロッパの文学の常識から言えば非常識なほどに短い詩に接して、スペイン語詩人たちの詩がいかに変容したかという研究がほとんどなかったことであつた。俳句そのものをスペイン語に移植しようとした詩人だけが注目されていたのである。極東の国の十七文字の詩を知ったからといって、スペインの詩人がすぐに真似をしようとは思わないかもしれない。しかし、極小の詩から受けた衝撃に触発された詩はあつたに違いない。ちょうど浮世絵を見た西洋の画家が、遠近法を無視した絵を描いてもよいのだと思い知り、新しい絵を生み出したように。

今、スペインはピレネー山中の村でこのあとがきを書いている。フランスとスペインの距離的、言語的な近さを実感させてくれ、本書のテーマを定めるきっかけとなつたあの村だ。本書が仕上がつたら、今年も二九一〇メートルのプッチマル山に友人のジョルディーたちと登るつもりだ。国境である頂上からフランスとスペインを同時に見下ろしながら朝食を食べるとき、周りからはフランス語とスペイン語とカタルーニャ語の会話が聞こえてくるだろう。

多くの出会いのおかげで本書は生まれた。川本皓嗣先生のご指導がなければ論文の端緒すらつかめていなかっただろう。川本先生が学長を退かれ、博士論文の主査から副査になられたとき、快く主査を引き受けてくださった現大手前大学学長の柏木隆雄先生からは、多くの有益なご助言を頂戴した。論文審査のために東京から西宮へ二度も足を運んでくださった東京大学の斎藤文子先生は、丁寧に論文を読んだうえで、貴重なアドバイスをいくつもくださった。先生のご指摘がなければ本書の詩の訳はもっとつまらないものになっていたことだろう。私の

論文をおもしろいと評価してください。小田桐弘子先生のおことばには大いに勇気づけられた。この場を借りて心からお礼を申し上げます。

また、『国際歳時記における比較研究』に執筆する機会を与えてくださった十文字学園女子大学の東聖子先生、そして、関西学院大学大学院修士課程でご指導いただいた小山敏夫先生、山田武雄先生にも深く感謝の意を表したい。

ほかにも先生方や友人が応援してください。鼓直先生は絶版で手に入らない貴重な本をプレゼントしてください。萩内勝之先生は段ボール二杯分もの書籍を送ってください。パリからは、ソルボンヌ大学カタルーニャ語研究所元所長 Denise Boyer 氏が、幾度も資料を郵送してください。バルセロナ在住の友人、Joaquim Pijoan 氏は、詩の解釈についての質問にいつも真剣にこたえてくれ、Gemma Guilera 氏は、百年以上前の新聞記事をあつという間にみつけてくれた。セルバンテス文化センター東京事務局長にして三十年来の友、Mavis Carranza 氏は、ガルシア・ロルカにかかわる重要な資料を贈ってくれた。これらの方々に厚くお礼を申し上げます。

さらに、この本の出版の意義を理解し、上梓の機会を与えてくださった思文閣出版の原宏一氏と、じっくりと原稿を読み、的確な提案をくださった編集者の三浦泰保氏に深く感謝申し上げます。

最後に、論文を書くなんて向いていないと落ち込む私を、なだめすかしてなんとかあとがきを書くところまで連れてきてくれた夫の耕に、ありがとうと言いたい。博士論文、そして本書の執筆中の食事当番はほとんど耕であつた。

田澤佳子

索引

ア

- アール・ヌーヴォー 266
 アインシュタイン Einstein, Albert (1879-1955) 177
 アウリヨン・デ・アロ Aullón de Haro, Pedro 8, 105, 159, 168, 170, 185, 186, 209
 『スペインにおける俳句』 *El Jaiku en España* 8
 アストン Aston, William George (1841-1911)
 13, 24, 27, 28, 31, 34, 35, 40, 50, 79, 122, 190, 198, 227, 288
 『日本文学史』 *A History of Japanese Literature*
 24, 27, 28, 31, 34, 35, 47, 50, 51, 79, 190, 227
 アスプリウ Espriu, Salvador (1913-1985) 290
 アスンシオン・シルバ Asunción Silva, José (1865-1896) 162
 アソリン〔マルティネス・ルイス〕 Azorín〔Martínez Ruiz, José〕 (1873-1967) 60, 85
 アチュカロ Achúcarro, Nicolás (1880-1918) 163, 164
 アテネオ (文化協会) ateneo 35, 50, 78, 79, 201, 228
 アナグリフォ anaglifo 181~6, 224~6
 アポリネール Apollinaire, Guillaume (1880-1918) 268, 277
 荒木田守武 (1473-1549) 22, 26, 40, 92, 190, 262, 272
 アラゴン Aragon, Louis (1897-1982) 177
 『アルス・マルジャス』 *Els Marges* 9
 『アル・ディア』 *El Dia* 270, 273
 アルトラギレ Altolaguirre, Manuel (1905-1959) 38, 156, 210~1, 215~8, 220~3, 231
 「ある女友達のための詩」 *Un verso para una amiga* 220
 「浜辺」 *Playa* 218
 『招かれた島、その他の詩』 *Las islas invitadas y otros poemas* 218
 アルバル Alvar, Manuel (1923-2001) 60, 61, 156
 アルベール=ビロ Albert-Birot, Pierre (1876-1967) 280
 アルベルティ Alberti, Rafael (1902-1999) 181, 184, 210, 211, 216, 217, 225~7, 231, 256, 290
 『日々の雑歌』 *Versos sueltos de cada día* 225
 『満潮』 *Plenamar* 225
 『陸に上がった水夫』 *Marinero en tierra* 217
 『愛人』 *La amante* 210
 アレイクサンドレ Aleixandre, Vicente (1898-1984) 38, 210, 231
 アレグレ・ヘイツマン Alegre Heitzmann, Alfonso (1955-) 49
 アロヨ Arroyo, César E. (1890-1937) 245
 アロンソ Alonso, Dámaso (1898-1990) 231, 256
 『アンボス』 *Ambos* 215, 216

イ

- イカサ Icaza, Francisco A. de(1863-1925) 88
 生きたことば主義 *paraula viva* 284
 イサベリータ→ガルシア・ロルカ(イサベル)
 井尻香代子 173
 『イスパニア』 *Hispania* 36
 イソップ Aesop(前6世紀頃) 193
 イノホサ Hinojosa, José Maria(1904-1936) 38, 216, 211, 222~4
 『田舎の詩』 *Poemas del Campo* 224
 『カリフォルニアの花』 *La flor de California* 222
 イマジスト 37
 イマジズム 91, 100, 102, 168, 214, 215, 234, 247, 249, 252~4, 257, 285
 『インディセ』 *Indice* 64, 172, 202, 203, 228
 インプレント・スル Imprenta Sur 210, 217, 220
 『韻文と散文』 *Verso y prosa* 217

ウ

- ヴァレリー Valéry, Paul(1871-1945) 177
 ウェルズ Wells, H. G.(1866-1946) 177
 ヴェルレーヌ Verlaine, Paul(1844-1896) 54, 56, 86, 158, 164
 『艶なるうたげ』 *Fêtes galantes* 165
 『詩選集』 *Choix de poésie* 54
 「白き月かげ」 *La lune blanche* 164
 「月の光」 *Clair de lune* 165
 『よき歌』 *La bonne chanson* 164
 ヴォカンス Vocance, Julien(1878-1954) 18, 41
 「戦争百詩」 *Cent Visions de Guerre* 18, 41
 ヴォルテール〔アルエ〕Voltaire〔Arouet, François-Marie〕(1694-1778) 88
 ヴォワザン Voisins, Gilbert de(1877-1939) 17, 18
 「日本趣味の五〇の四行詩」 *Cinquante quatrains dans le goût japonais* 18
 「同一主題による二五の四行詩」 17
 ウナムノ Unamuno, Miguel de(1864-1936) 14, 41, 56, 177, 210, 220
 『詩集』 *Poesías* 14
 『ウルトラ』 *Ultra* 256
 『ウルトライスモ』 *El Ultraísmo* 235
 ウルトライスモ 7, 42, 56, 88, 233~6, 240, 244~7, 254, 256, 278, 280, 290
 『ウルトラ・デ・オビエド』 *Últra de Oviedo* 256
 ウンブラル Umbral, Francisco(1932-2007) 257

エ

- 『エスパーニャ』 *España* 8, 43, 68, 104, 188, 196, 201, 203, 206, 207, 228, 239, 242, 245, 256
 エスピナ Espina, Antonio(1894-1972) 202, 238~40, 254

- 「同心円」 Concéntricas 239
「版画」 Aguatinta 238, 240
「ほぼ「ハイカイ」」 Casi 'Haikais' 239, 240
エスプロンセダ Espronceda, José de (1808-1842) 85
NRF誌→『ヌーヴェル・ルヴュー・フランセーズ』
エピグラム 16, 149, 196～9, 261, 264, 284, 288
『エリオス』 *Helios* 20, 39, 40, 88
『エル・アテネオ』 *El Ateneo* 50
『エル・インパルシアル』 *El Imparcial* 65
『エル・ガト・ネグロ』 *El Gato Negro* 80
エル・グレコ〔テオトコプーロス〕 El Greco [Theotokopoulos, Domenikos] (1541-1614)
182
『エル・ソル』 *El Sol* 52, 154, 202
『エル・ヌエボ・メルクリオ』 *El Nuevo Mercurio* 26, 47, 201
『エル・パイス』 *El País* 55
『エル・プログラマ』 *El Programa* 80
『エル・ポルベニール』 *El Porvenir* 163
『エレクトラ』 *Electra* 54, 85
エンシーナ Encina, Juan de la (1883-1963) 201

オ

- オウィディウス Ovidius Naso, Publius (前43-17) 135
『変身物語』 135
大島正 (1918-1984) 170, 173
太田靖子 (1955-) 11, 35, 50, 166
『オリゾンテ』 *Horizonte* 256
オルティス・デ・ピネド Ortiz de Pinedo, José (1881-1959) 87
オルティン Ortín, Marcel (1959-) 9, 161
オルテガ・イ・ガセット Ortega y Gasset, José (1883-1955)
21, 35, 106, 159, 177, 216, 229, 277, 235
オルベ Orbe, Timoteo (1866-没年未詳) 163

カ

- カーライル Carlyle, Thomas (1795-1881) 88
カイザーリンク Keyserling, Hermann (1880-1946) 177
柿本人麿 (生没年未詳) 45
学生寮 Residencia de Estudiantes 38, 53, 65, 98, 154, 155, 174～6, 178～82, 185, 187,
188, 202～4, 209～11, 214～7, 220, 222, 224, 225, 246, 247, 288
カサル Casal, Julián del (1863-1893) 162
カストロ Castro, Américo (1885-1972) 184
片隅 Rinconcillo 113, 114, 169
『カタルーニャの声』 *La Veu de Catalunya* 19, 21, 45, 155, 160, 211, 260～2, 267, 269, 285
カチヨ・ビウ CachoViu, Vicente (1929-1997) 21

ガト・ネグロ Gato Negro 85, 163
 金子美都子(1943-) 23, 50, 119, 198
 カフェ・コロニアル Café Colonial 54, 233
 カフェ・デ・ラ・アラメダ Café de la Alameda 113
 カフェ・デ・レバンテ Café de Levante 201
 カフェ・レヒーナ Café Regina 201
 『窯元』 *Alfar* 256
 ガヤレ Gayarre, Miguel(1866-1936) 163
 ガルシア・モレンテ García Morente, Manuel(1886-1942) 177
 ガルシア・ロベス García López, José(1936-) 255
 ガルシア・ロルカ(イサベル) García Lorca, Isabel(1909-2002) 127
 ガルシア・ロルカ(フェデリコ) García Lorca, Federico(1898-1936) 7, 28, 38, 52, 63,
 64, 113~6, 118~26, 128, 135, 138, 139, 141~3, 145, 146, 149~56, 169~71, 173~6, 181,
 184, 187, 210, 211, 214~6, 220, 222, 224~7, 230, 231, 245, 247, 256, 280, 288, 289
 「新しい歌」 Cantos Nuevos 152
 「アンダルシアの素朴な歌「カンテ・ホンド」」 El cante jondo: Primitivo canto andaluz
 150, 172
 「イトスギ」 Ciprés 134
 「歌の時」 Momentos de canción 138
 「海」 El mar 129
 「海の版画」 Estampas del mar 129
 「海水のバラード」 La balada del agua del mar 120
 「鏡の組曲」 Suite de los espejos 133
 『歌集』 *Canciones* 114, 115, 128, 140, 155, 181, 210, 220
 『カンテ・ホンドの歌』 *Poema del cante jondo* 115, 128, 147, 155, 173, 181
 「騎乗の歌」 Canción del jinete 114, 116, 118, 128, 153, 170, 220, 231
 「狂想曲」 Capricho 131
 「国」 País 132
 『組曲』 *Suites* 115, 118, 127, 129, 131, 138~40, 146, 148, 153, 155, 171, 173, 181, 220
 「黒い苦しみのロマンセ」 Romance de la pena negra 147
 「月下の歌」 Canciones bajo la luna 131
 「月曜日、水曜日、金曜日」 Lunes, miércoles, viernes 142
 「叫び」 El grito 148
 『詩集』 *Poesías* 155, 181
 『詩の本』 *Libro de poemas* 118, 129, 139, 152, 154
 『ジプシー歌集』 *Romancero gitano* 137, 147
 「ジプシー歌集」 Romancero gitano 140, 172
 「ジプシーのシギリヤの詩」 Poema de la Sigüiriya Gitana 148
 「十字路」 Encrucijada 139
 『初期の歌』 *Primeras canciones* 172
 「シントウ」 Shinto 133
 「スイセン」 Narciso 144
 「蟬！」 ¡Cigarra! 119

- 「柱廊」Pórtico 130,131
 「月が覗く」La luna asoma 142
 「月の歌」Canción de luna 141,142
 「ドゥエンデの理論とからくり」Teoría y juego del duende 174
 『ニューヨークの詩人』*Poeta en Nueva York* 155
 「ハイカイについての覚書」NOTA SOBRE EL “HAI-KAI” 120,122,148,149
 「ハイカイについての批評」CRÍTICA DEL “HAI-KAI” 120,122,149
 「花」Flor 141
 「半月」Media luna 137
 「反射のある詩」Canción con reflejo 138
 「変奏曲」Variación 136
 「冒険家カタツムリが出会ったもの」Los encuentros de un caracol aventurero 118
 「ママに捧げるお祝いのハイカイ」“Hai-kais” de felicitación a mamá 120,121,149,153
 「ミゲル・ピサロ」¡Miguel Pizarro! 171
 「水の組曲」Suite del agua 132
 「モレナスの庭」El Jardín de las morenas 130
 「淀み」Remansos 134,137
 ガルシア・ロルカ(フランシスコ) García Lorca, Francisco(1902-1976) 115,150,172,174
 ガルセス Garcés, Tomás(1901-1993) 270
 カルドウッチ Carducci, Giosuè(1835-1907) 88
 カルドナ Cardona, Rodolfo(1924-) 248~51,257
 ガルニエ出版 30,33,49,53,165
 カルネー Carner, Josep(1884-1970) 14,19~22,29,33,41,42,45,161,260~3,285,290
 『美味しい果物』*Els fruits sabrosos* 260
 『詩人たちの本』*Llibre dels poetes* 20,260
 「ハイカイ」Els Haikāi 19
 『初めてのソネットの本』*Primer llibre de sonets* 260
 『カルメン』*Carmen* 217
 河合曾良(1649-1710) 262
 川本皓嗣(1939-) 10,30,67,75,91,249,251~3,265
 『日本詩歌の伝統——七と五の詩学——』 67
 カンシノス＝アセンス Cansinos-Assens, Rafael(1882-1964) 56,88,233,234,244,245,255,256
 『七本枝の燭台』*El candelabro de los siete brazos* 233
 カンテ・ホンド 121,122,150,151,155,174
 カンテラ・コンズ Cantella Konz, Barbara Dianne(1945-) 7
 『モダニズムから前衛へ——スペイン語圏の詩における俳句の美学——』*From Modernism to Vanguard: The Aesthetics of Haiku in Hispanic Poetry* 7
 カント Kant, Immanuel(1724-1804) 88
 カンプルビー Camprubi, Zenobia(1887-1956) 88~9,96,98~9,102,103,112,168,180

キ

- 季語 160, 196
 紀貫之(868頃-945頃) 45, 162, 163
 「仮名序」 191, 193
 ギブソン Gibson, Ian(1939-) 158
 キヤール Quillard, Pierre(1864-1912) 16
 九八年世代 6, 38, 60, 159
 キュリー Curie, Marie(1867-1934) 177
 ギリエン Guillén, Jorge(1893-1984)
 38, 177, 201, 203, 204, 206, 207, 209, 210, 217, 220, 229, 231, 256
 「秋の枝」 Rama del otoño 208
 「秋の木」 Árbol del otoño 207
 「歌」 Cántico 204
 「内側」 Interior 206
 『歌集』 Cántico 203, 204, 209
 「夏の町」 Ciudad de los estios 204
 「眠る人」 El durmiente 205
 『ギリシャ』 Grecia 244, 245, 255
 キリス Quilis, Antonio(1933-2003) 68
 『クアデルノス・リテラリオス』 Cuaderonos Literarios 201
 『クアデルンス・ダ・プエシア』 Quaderns de Poesía 273

ク

- クーシュー Couchoud, Paul-Louis(1879-1959) 7, 19, 20, 23, 24, 31, 40~2, 45, 48, 119,
 121, 157, 175, 187, 198, 204, 227, 261, 262, 267, 272, 285
 『アジアの賢人と詩人』 Sages et Poètes d'Asie 41, 175, 187, 204
 「日本の抒情的エピグラム」 Le haïkaï: Les épigrammes lyriques du Japon
 19, 31, 40, 119~21, 187, 198, 227, 261, 267, 272, 284
 グティエレス・ナヘラ Gutiérrez Nájera, Manuel(1859-1895) 162
 クラウゼ哲学[クラウシスモ] krausismo 86, 87, 188, 226
 クラウゼ Krause, Karl Christian Friedrich(1781-1832) 87, 88, 156, 178
 グリス[ゴンサレス=ペレス] Gris, Juan[González-Pérez, José Victoriano](1887-1927)
 217, 285
 グリム Grimm, Luisa[Louise](1873-1960) 36, 51, 88
 グレゲリア greguería 216, 242, 246~54, 256, 257
 グレグ Gregh, Fernand(1873-1960) 227
 クレメンテ Clemente, Salvador(1859-1909) 78
 クローデル Claudel, Paul(1868-1955) 177
 グロピウス Gropius, Walter(1883-1969) 177

ケ

- ケインズ Keynes, John Maynard(1883-1946) 177

- ゲーテ Goethe, Johann von Wolfgang(1749-1832) 88
 ゲラン Guérin, Charles(1873-1907) 92

コ

- 高踏派 54
 ゴーティエ(ジュディット) Gautier, Judith(1850-1917)
 22, 43, 45, 50, 162, 163, 191, 200, 228, 288
 『蜻蛉集』 *Poèmes de la libellule* 22, 43, 45, 50, 162, 163, 191
 ゴーティエ(テオフィル) Gautier Théophile(1811-1872) 86
 『古今和歌集』 47, 162, 191, 193
 コクトー Cocteau, Jean(1889-1963) 216
 児嶋桂子(1944-) 46
 『コスモポリス』 *Cosmopolis* 256
 小林一宏(1937-) 46
 ゴメス・カリージョ Gómez Carrillo, Enrique(1873-1927)
 14, 25~9, 32, 33, 40, 53~5, 163, 191
 「詩の心」 *El sentimiento poético* 25, 26, 47, 191
 『日本の魂』 *El alma japonesa* 25, 26, 46
 『誇り高く優雅な国、日本』 26, 46, 47
 『マルセーユから東京へ』 *De Marsella á Tokio* 25, 46
 ゴメス・デ・ラ・セルナ Gómez de la Serna, Ramón(1888-1963)
 39, 202, 216, 235, 242, 246~9, 252, 254, 256, 257
 『火中に入る』 *Entrando en fuego* 246
 『グレゲリアス』 *Greguerías* 39, 248
 ゴルキアノ Gorkiano→サルバット=パバサイト
 コロンビーネ Colombine→ブルゴス
 ゴンゴラ Góngora, Luis de(1561-1627) 158, 217
 『孤独』 *Soledades* 158
 ゴンザレス・コボ González Cobo, Antonio(生没年未詳) 115
 ゴンザレス・プラダ González Prada, Manuel(1844-1918) 162
 ゴンサレス・ブランコ González Blanco, Andrés(1886-1924) 37

サ

- 西園寺公望(1849-1940) 45
 『ザ・ポエトリー・レビュー』 *The Poetry Review* 36, 37, 88
 サマン Samain, Albert(1858-1900) 86
 サラ Sala, Emilio(1850-1910) 87
 サラサル Salazar, Adolfo(1890-1958) 138, 139, 154, 155, 193
 「ハイカイについての提案」 *Preposiciones sobre el Hai=kai* 154
 サリナス Salinas, Pedro(1891-1951) 201, 210, 220, 231,
 サルバット=パバサイト Salvat-Papasseit, Joan(1894-1924)
 260, 276~8, 280, 282, 286, 290
 「アバンギャルド詩の終わり」 *Fi dels poemes d'avantgarda* 277

「イメージ」	Les imatges	282
『陰謀』	<i>Les conspiracions</i>	277
「エピグラム」	Epigrama	280
『唇に薔薇を』	<i>La rosa als llavis</i>	277, 282, 283
「景色」	Paisatge	280
『小熊座』	<i>Ossa Menor</i>	277, 283
「諺」	Proverbi	283
「前衛の詩」	Poemes d'avanguardia	280
「タンカ」	Tanka	283
「泥棒だったのよ」	Si n'era un lladre	282
「震え」	Vibracions	278, 280
『ヘルツの波の詩』	<i>Poemes en ondes hertzianes</i>	277
『星々の停業』	<i>La gesta dels estels</i>	277, 280
『港とカモメの放射機』	<i>L'irradiador del port i les gavines</i>	277, 278, 280, 286
「もしそれを持って」	Si, per tenir-la	282
サルモン	Salmon, André (1881-1969)	285
サンチェス＝バルブード	Sanchez-Barbudo, Antonio (1910-1995)	82, 94, 95, 99, 166
サンチェス・ロトリグス	Sánchez Rodríguez, José (1875-1940)	39
『アンダルシアの魂』	<i>Alma andaluza</i>	39
サンドバル	Sandoval, Francisco (生没年不詳)	163

シ

『詩歌撰葉』	50	
シェニウス Xènius→ドルス		
シェリー Shelley, Percy Bysshe(1792-1822)	89	
『詩と散文』 <i>Vers et Prose</i>	92,165	
ジブシーのシギリヤ siguiiya gitana	125,174	
シマロ Simarro, Luis(1851-1921)	86~8,164	
清水憲男	170,174	
ジャコブ Jacob, Max(1876-1944)	56,245,268,269	
『散子筒』 <i>Le cornet à dès</i>	56,245	
ジャポニスム	31	
沙弥満誓(生没年未詳)	45	
自由教育学院 Institución Libre de Enseñanza		
	21,53,87,88,156,176~8,186,188,202,222,226	
ジュノイ Junoy, Josep Maria(1887-1955)	260,267~70,272,273,275~8,280,290	
『愛と景色』 <i>Amour et paysage</i>	270,271,273,274	
『イメージと傷』 <i>La imagen y su herida</i>	275	
「ギヌメール」 Guynemer	269	
「景色の終わり。未発表のハイカイ五句」 Fi de paisatge. Cinc hai-kais inèdits		273
『詩と具象詩』 <i>Poemas i calligrames</i>	269	
「虹」 Arc-en-cel	269	
「忘却のカクテル」 COCKTAIL DE D'OUBLI	273	

- シュリ＝プリュドム Sully-Prudhomme(1839-1907) 158
 シュルレアリスム 38, 186, 222, 223, 257, 290
 シュワルツ Schwartz, William Leonard(1888-1955) 15, 17, 19, 40, 41, 276
 『近代フランス文学にあらわれた日本と中国』 15, 19, 276
 ジョイス Joyce, James(1882-1941) 177
 象徴派 54
 「情熱的な考え」 Pensamiento apasionado 230
 ショーペンハウアー Schopenhauer, Arthur(1788-1860) 88
 シルバ silva 158
 シング Synge, John Millington(1871-1909) 88, 98
 『新選集』 *La Nuova Antologia* 35
 ジンファレー Gimferrer, Pere(1945-) 290

ス

- スサーナ Alex Susanna(1957-) 159
 ストランヴィンスキー Stravinsky Igor(1882-1971) 177
 スニエ Sunyer, Joaquim(1875-1956) 285
 スピノザ Spinoza, Baruch de(1632-1677) 88
 スフォルツァ Sforza, Carlo(1873-1952) 177
 「スペイン語圏の詩における日本の俳句についての短い解説」 Brief Note: The Japanese Haiku in Hispanic Poetry 7
 『スペイン通信』 *La Correspondencia de España* 233
 スペラッティ・ピニエロ Speratti Piñero, Emma Susana(1919-1990) 6
 「バリエ＝インクランと芭蕉の「俳句」」 Valle-Inclán y un Hai-ku de Basho 6

セ

- セヴラック Séverac, Déodat de(1872-1921) 269
 セギディーリャ seguidilla simple 68～70, 261, 262
 セギディーリャ・コンプエスタ seguidilla compuesta 69
 セノビア→カンブルビー
 セルスダ Cernuda Luis(1902-1963) 210, 215, 231, 290
 『セルバンテス』 *Cervantes* 245

ソ

- ソウピロン Souvirón, José María(1904-1973) 216
 ソカン→山崎宗鑑
 ソネット 16, 265, 285

タ

- タゴール Tagore, Rabindranath(1861-1941) 96, 98, 99
 『新月』 *The Crescent Moon* 96, 98
 田辺厚子(1935-2000) 166
 タブラーダ Tablada, José Juan(1871-1945)

3~7, 11, 19, 35, 50, 88, 162, 166~8, 230, 287, 289
『ある日……』 *Un día...* 3, 19, 166~8, 245
『花瓶』 *El jarro de flores* 4, 167
『詞華集』 *El Florilegio* 11
『広重』 *Hiroshigüe* 11, 35
「柳」 *Un saúz* 4
『タブレロス』 *Tableros* 256
ダリ Dalí, Salvador (1904-1989) 154, 176, 181, 187, 211, 217
ダリオ Darío, Rubén (1867-1916) 38, 40, 54, 85, 88, 114, 163
『巡礼』 *Peregrinaciones* 40

チ

チェスタトン Chesterton, Gilbert Keith (1874-1936) 177
チェンバレン Chamberlain, Basil Hall (1850-1935)
7, 13, 24, 25, 31, 40, 73, 189, 190, 198, 199, 227, 228, 284, 288
「芭蕉と日本の詩的エピグラム」 Bashō and the Japanese Poetical Epigram
24, 31, 73, 190, 227, 228
『日本事物誌』 24
地中海派 268
『頂点と滑り台』 *Vértices y Tobogán* 256

ツ

「月を眺めて」 *Mirando a la luna* 230
鼓直 (1930-) 49

テ

ディアス・ミロン Díaz Mirón, Salvador (1853-1928) 162
デイヴレー Davrey, Henry-D (生没年未詳) 227
ディエゴ Diego, Gerardo (1896-1987) 188, 201, 210, 217, 231, 256
ディエス＝カネド Diez-Canedo, Enrique (1879-1944) 8, 14, 22~5, 28, 29, 32, 33, 37, 38,
43, 52, 67, 70, 71, 92, 93, 97, 104, 122, 160, 162, 188~91, 193, 195~203, 228, 229, 245, 288
『新しいエピグラム』 *Nuevos epigramas* 196
「アメリカ合衆国の詩人達」 *Poetas de los Estados Unidos* 37
『アメリカのエピグラム』 *Epigramas americanos* 196, 199, 202
「アントニオ・マチャード、日本の詩人」 Antonio Machado, poeta japonés 52
『イメージ』 *Imágenes* 200
「蛙」 *Las ranas* 190
『時間の詩』 *Versos de las horas* 188
「四季のハイカイ」 *Haikais de las cuatro estaciones* 193
「ジュディット＝ゴージェ」 Judith Gautier 228
『隣の芝生』 *Del Cercado ajeno* 22, 25, 32, 92, 162, 188
「ブエノスアイレスのハイカイ」 *El hai-kai y de Buenos Aires* 197
「文学的生活」 *La Vida Literaria* 68

- 『夢の影』 *La sombra del ensueño* 200
 ディキンソン Dickinson, Emily (1830-1886) 89
 デモフィノ Demófino→マチャード・アルバレス
 デュアメル Duhamel, Georges (1884-1966) 18
 テルトゥリア tertulia 53, 79, 85, 87, 157, 201, 202, 233, 246, 247, 267, 277, 288
- ト
- トゥデラ Tudela, Mariano (1925-2001) 157
 ドゥラン Durán, Agustín (1789-1862) 53
 トーレ Torre, Guillermo de (1900-1971) 155, 185, 202, 229, 234, 236, 244, 247, 256, 278
 「ウルトライスモの起源」 *Génesis del Ultraismo* 234, 236
 「ハイカイ」 *Hai-kais* 236
 『プロペラ』 *Hélices* 236
 ド・ブロイ Broglie, Louis Victor de (1892-1987) 177
 ドミンゲス Domínguez Berrueta, Martín (1869-1920) 113
 ドメンチャーナ Domenchina, J. J. (1898-1959) 201
 ドルス Ors, Eugeni d' (1881-1954) 14, 19, 21, 22, 29, 33, 41, 43, 155, 160, 161, 181, 188, 200, 202, 211, 212, 240, 242, 263, 247, 260, 262~7, 269, 277, 284
 『イジドラ・ヌネイの死』 *La Mort d'Isidre Nonell* 200
 『語彙集』 *Glosari 1906-1907* 22
 「語彙集」 *Glosari* 21, 22, 160, 188, 211, 263
 「ジロナ讃歌」 *Elogi de Girona* 161
 『立派な女』 *La Ben Plantada* 263
 「ロケット花火讃歌、聖ヨハネ祭の夜に」 *Elogi del coet per a dir en la nit de Sant Joan* 21, 22, 263
 トンプソン Thompson, Francis (1859-1907) 88
- ナ
- 内藤丈草 (1662-1704) 262
 中山幸一 (ナカヤマ・コイチ, 1899-1948) 170
- ニ
- ニーチェ Nietzsche, Friedrich Wilhelm (1844-1900) 88
 二七十年代 38, 203, 210, 211, 215, 216, 230, 235, 236
 日本趣味 281
- ヌ
- 『ヌーヴェル・ルヴュー・フランセーズ』 *La Nouvelle Revue Française* 15, 39, 270
 スービル Neuville, Albert (生没年不詳) 16, 18, 40
 『俳句と短歌』 *Haikais et Tankas* 16
- ネ
- ネアモア Naremore, James 37

ネルボ Nervo, Amado(1870-1919) 88,162

ノ

ノウサンティズマ(一九〇〇年主義) 20,42,260,262,266,267,284

野村凡兆(1640頃~1714) 272

ハ

バイコルバ・プラナ Vallcorba Plana, Jaume(1949-) 270

バイドロス Paedrus(c.15BC-c.50AD) 193

ハイネ Heine, Heinrich(1797-1856) 88

ハイヤーム Khayyám, Omar(1048-1131) 210

パウンド Pound, Ezra(1885-1972) 37,91,249,252,253,257

『地下鉄の駅で』 *In a Station of the Metro* 257

パキート Paquito→ガルシア・ロルカ(フランススコ)

バショウ→松尾芭蕉

パシリ Pasigli, Guillermo(1877-1942) 35

パス Paz, Octavio(1914-1998) 3~8,10,11,13,161,198,203,247,287

「日本文学の三つの時代」 *Tres momentos de la literatura japonesa* 5

「俳句の伝統」 *La Tradición del Haikú* 4,5,10

「ホセ・ファン・タブラーダの航跡」 *Estela de José Juan Tablada* 3,11

「松尾芭蕉の詩」 *La poesía de Matsuo Basho* 6,11

パン Paso, Manuel(1864-1901) 162

バタイユ Bataille, Henry(1872-1922) 54

裸の詩 *la poesía desnuda* 99,100,102,106,109,168,221,288

バトラー・イエーツ Butler Yeats, William(1865-1939) 88

林屋永吉(1919-) 10,11

『パラボラ』 *Parábola* 256

バリエ Valle, Adriano del(1895-1957) 155,242,255

「七色のハイカイ」 *Hai kais en siete colores* 242

バリエ＝イン克蘭 Valle-Inclán, Ramón María del(1866-1936) 6,54,56,85,87,201

『純潔な女王の笑劇と放縦』 *Farsa y licencia de la Reina Castiza* 6

「パリ時評」 *Crónicas de París* 268

バルド・バサン Pardo Bazán, Emilia(1851-1921) 177

バルビュス Barbusse, Henri(1873-1935) 54

バルベルデ Valverde, José María(1926-1996) 209

『ハレルヤ』 *Aleluyas* 217

バレンシア Valencia, Guillermo(1873-1943) 85,162

バロハ Baroja, Pio(1872-1956) 54

『反射鏡』 *Reflector* 256

バンド・ビリヤール Vando Villar, Isaac del(1890-1963) 244,255,278

ヒ

ビエルサ Bielsa, Héctor→ジュノイ

- ピカソ Picasso, Pablo(1881-1973) 216, 217, 247, 269
 ビギ Vighi, Francisco(1890-1962) 42, 240, 242
 「僕の初めてのハイカイ」 *Mis primeros Hai-Kais* 240
 ピサロ Pizarro Zambrano, Miguel(1897-1956) 114, 115, 118, 171
 『ビダ・ヌエバ』 *Vida Nueva* 80
 ビデラ Videla, Gloria(1932-) 235, 254
 人見一太郎(1865-1924) 50
 『日本——風俗・教育論——』 50
 ヒネール・デ・ロス・リオス Giner de los Ríos, Francisco(1938-1915)
 88, 156, 176, 178, 179, 187, 211
 ヒメネス Jiménez, Juan Ramón(1881-1958) 5~7, 10, 14~6, 20, 25, 28, 32, 33, 36~9,
 52, 56, 77~9, 81~3, 85~9, 91, 93, 96~103, 105, 107, 112, 141, 142, 155, 161~5, 168, 177,
 180, 188, 202~4, 210, 211, 214, 216, 217, 220~2, 224, 235, 245, 256, 271, 280, 288, 289
 『哀歌』 *Elegías* 83
 「あそこに荷馬車がやって来る……」 *Allá vienen las carretas...* 164
 『石と空』 *Piedra y cielo* 81, 99, 106, 108, 141
 『永遠』 *Eternidades* 81, 99, 103, 106
 「大きな月」 *Luna grande* 109, 110
 「屋上」 *Azotea* 95
 「お前だけ」 *Sólo tú* 111
 『思い出』 *Recuerdos* 78
 「思い出、五」 *El recuerdo: V* 141
 『悲しみのアリア』 *Arias tristes* 40, 82, 83
 『彼らが川を去って行く』 *De ríos que se van* 111
 『完全な季節』 *La estación total* 111
 『雲』 *Nubes* 86
 「午後」 *Tarde* 107
 「詩」 *Poema* 106
 『詩』 *Poesía* 108
 『詩選集』 *Antología poética* 80
 『純粋な哀歌』 *Elegías Puras* 93
 『新婚の詩人の日記』 *Diario de un poeta recién casado* 39, 81, 99~102, 112, 211
 『睡蓮』 *Nénuphars* 16
 『睡蓮』 *Ninfeas* 86
 「スズメたち」 *Gorriones* 96, 109
 『スピリチュアルなソネット』 *Los Sonetos espirituales* 98
 『スミレの魂』 *Ámes de violette* 16
 『スミレの魂』 *Almas de violeta* 86
 『中ぐらいの哀歌』 *Elegías intermedias* 93
 「月」 *La luna* 96
 『遠い庭』 *Jardines lejanos* 82, 93
 「中庭」 *Patio* 80
 『嘆かわしい哀歌』 *Elegías lamentables* 94

- 「夏」 El verano 95
『夏』 *Estío* 98
「眠った小道」 El sendero se ha dormido 164
『後々のためのバラード』 *Baladas para después* 94
「野原の甘い寂しさ」 Tristeza dulce del campo 164
『春のバラード』 *Baladas de primavera* 14, 93, 97
『プラットホーム』 *Andén* 80
『プラテロと私』 *Platero y yo* 82, 94～6, 109, 167, 211
『忘却Ⅰ 緑の葉』 *Olvidanzas. I. Las hojas verdes* 97
『牧歌集』 *Pastorales* 89, 93, 95, 97
『魔術的で悲痛な詩』 *Poemas mágicos y dolientes* 166
『迷宮』 *Laberinto* 98
『憂愁』 *Melancolía* 83
「夜」 La noche 105
『ロマンチックなことば』 *Las Palabras románticas* 94
『私の幼年時代の存在と影』 *Entes y Sombras de mi infancia* 78
ヒメネス・フラウド Jiménez Fraud, Alberto (1883-1964) 176, 180
ヒューム Hulme, Thomas Ernest (1883-1917) 88, 92, 91
「秋」 Autumn 92
平川祐弘 (1931-) 47, 48
ビリェナ Villena, Luis Antonio de (1951-) 7, 159, 160, 168, 170
「俳句、その魅力と三人のスペイン語詩人」 De 'haiku', sus seducciones y tres
poetas de lengua española 7
ビリャエスベサ Villaespesa, Francisco (1877-1936) 56, 85～7, 162

フ

- ファラテー Ferrater, Gabriel (1922-1972) 290
ファリャ Falla, Manuel de (1876 -1946) 155, 177, 216, 217
フェドロ Fedro→バイドトロス
フェラン Ferrán, Augusto (1835-1880) 158
フェルナンデス・アルマグロ Fernández Almagro, Melchor (1893-1966) 115, 171
フエンテ Fuente, Ricardo de la 8
「アントニオ・マチャードにおけるハイク」 El haiku en Antonio Machado 8
『ハイジン』 *Haijin* 8
フォー ル Fort, Paul (1872-1960) 18
フォッシュ Foix, J. V. (1893-1987) 290
藤原興風 (生没年不詳) 45
藤原広嗣 (フジワラ ノ ヒロツグ、生年不詳-740) 230
「花盛りの枝」 Rama en flor 230
フステー Fuster, Joan (1922-1992) 277
「不透明な歌」 La canción opaca 230
ブニュエル、ルイス Buñuel, Luis (1900-1983) 154, 176, 181, 187
ブライス Blyth, Reginald Horace (1898-1964) 5, 7

- ブラウアー、ゲイリー・L Brower, Gary L. 7, 11
 ブラスコ Blasco, Javier (1954-) 98
 ブラック Braque, Georges (1882-1963) 285
 プラドス(エミリオ) Prados, Emilio (1899-1962)
 38, 156, 209-12, 214, 215, 217, 222, 224, 229-31
 「穏やかさ」 Calma 212, 213
 『時』 *Tiempo* 212
 「夜」 Noche 212
 プラドス(ミゲル) Prados, Miguel 215
 フランコ Franco, Francisco (1892-1975) 286
 ブランコ Blanco, Eusebio (1844-1903) 158
 フランス France, Anatole (1844-1924) 54, 157
 フランス象徴主義 82, 86
 フリント Flint, Frank Stuart (1885-1960) 37, 249, 257
 「現代フランス詩」 Contemporary French Poetry 37
 フルゲラ Folguera, Joaquim (1893-1919) 260
 ブルゴス Burgos, Carmen de (1867-1932) 201
 ブレイク Blake, William (1757-1827) 89
 フローレンツ Florenz, Karl Adolf (1865-1938) 24
 『東洋からの詩の挨拶——日本詩歌——』 24
 ブロック Bloch, Jean-Richard (1884-1947) 173
 「ある種の日本の詩歌を題材とする二つの小組曲」 Deux petites suites, sur le mode
 de certains poèmes japonais 173
 『プロメテオ』 *Prometeo* 246, 248
 ブント Wundt, Wilhelm (1832-1920) 88

へ

- ベッケル Bécquer, Gustavo Adolfo, (1836-1870) 81, 82
 ベッス Betz, Mauris (1898-1946) 173
 『軍用煙草』 *Scaferlati pour troupes* 173
 「戦争小組曲」 Petite Suite guerrière 173
 ベナベンテ Benavente, Jacinto (1866-1954) 85, 87
 ペピン[ホセ]・ペリヨ Bello, Pepín [José] (1904-2008) 181, 186, 187, 209, 210, 211, 225, 227
 ペラ・クァルト[ウリベ] Pere Quart [Oliver, Joan] (1899-1986) 290
 ペリセー Pellicer, Julio (1872-1937) 87
 ベルガミン、ホセ Bergamín, José (1897-1983) 202, 216, 231, 290
 ベルクソン Bergson, Henri (1859-1941) 56, 177
 『ペルセオ』 *Perseo* 256
 ヘルダーリン Hölderlin, Friedrich (1770-1843) 88
 ペレス・ソリリャ Pérez Zorrilla, Elda 198
 ペレス・デ・アヤラ、ラモン Pérez de Ayala, Ramón (1880-1962) 87

ホ

- ホアキン→マチャード(ホアキン) 158
 ホイトマン Whitman, Walter(1819-1892) 204
 『ポエトウリー』 *Poetry* 285
 ポー Poe, Edgar Allan(1809-1849) 89
 ボードレール Baudelaire, Charles(1821-1867) 86, 204
 ポーラン Paulhan, Jean(1884-1968) 270
 ポストロマン主義 150
 ボヌフォワ Bonnefoy, Yves(1923-) 48, 151, 174
 ボベダ Bóveda, X.(1898-1963) 244
 ホメロス Homer(前9-8世紀頃) 190
 ボルヘス(ノラ) Borges, Norah(1901-1998) 229
 ボルヘス(ホルヘ・ルイス) Borges, Jorge Luis(1899-1986) 229, 234, 256
 凡兆→野村凡兆
 ボンボ Pombo 247, 256

マ

- マエストゥ Maeztu, Ramiro de(1875-1936) 56, 177
 正岡子規(1867~1902) 75
 マス・ロベス Mas López, Jordi(1972-) 9, 41, 161, 279, 285
 「カタルーニャ文学における最初の俳句の受容」 *La primera recepció de l'haiku en la literatura catalana* 9
 『ジュゼップ・マリア・ジュノイとジュアン・サルバット＝パパスイト——俳句への二つのアプローチ——』 *Josep Maria Junoy i Joan Salvat-Papasseit: dues aproximacions a l'haiku* 9
 マチャード(アントニオ) Machado Ruiz, Antonio(1875-1939) 5~8, 10, 14, 28~33, 38, 41, 49, 52~4, 57, 60~1, 64~8, 70~1, 73, 75, 77, 82, 114, 156~9, 164, 181, 186~7, 189, 202, , 210, 214, 220, 256, 280, 288~9
 「秋」 *Otoño* 158
 『新しい歌』 *Nuevas canciones* 52, 53, 65, 71
 「アルバルゴンザレスの土地」 *La tierra de Alvargonzález* 63, 64, 77, 114
 『カステイーリャの野』 *Campos de Castilla* 56, 57, 63, 66, 159
 『孤独』 *Soledades* 31, 54, 55, 158
 『孤独、回廊、その他の詩』 *Soledades, Galerías y otros poemas* 14, 29, 31, 32, 49, 55~8, 63, 114
 「諺と歌」 *Proverbios y cantares* 71, 72
 『全詩集』 *Poesías Completas* 64, 187
 『選集』 *Páginas escogidas* 64
 「素描と歌」 *Apuntes y canciones* 71, 73, 74, 77
 「低地へ」 *Hacia Tierra Baja* 68
 「ドウエロ川の河岸」 *Orillas del Duero* 57, 58
 「ドウエロ川の河岸にて」 *A orillas del Duero* 57

- 「庭の午後」 *La tarde en el jardin* 158
「春には、雨がいっぱい」 *En abril, las aguas mil* 61
「夜想曲」 *Nocturno* 158
マチャード(ホアキン) *Machado Ruiz, Joaquín* (1881-) 158
マチャード(ホセ) *Machado Ruiz, José* (1879- ?) 56
マチャード(マヌエル) *Machado Ruiz, Manuel* (1874-1947) 14, 25, 37, 41, 53~6, 156, 164
『魂と博物館』 *Alama y Museo* 14
マチャード・アルバレス *Machado Álvarez, Antonio* (1848-1893) 156, 186
『フラメンコ歌集』 *Colección de cantes flamencos* 156
マチャード兄弟 87
マチャード・ヌニェス *Machado Núñez, Antonio* (1815-1896) 156, 186
松尾芭蕉 (1644-1694) 9, 18, 28, 34, 54, 67, 71, 90, 189, 191, 193, 198, 199
『奥の細道』 10, 11, 198
松永貞徳 (1571-1653) 27
マヌエル→マチャード(マヌエル)
マノロ[ウゲー] *Manolo* [Hugué, Manuel] (1872-1945) 269
マラガイ *Maragall, Joan* (1860-1911) 20, 41, 263, 284
マリネッティ *Marinetti, Filippo Tommaso* (1876-1944) 277
マルティ・イ・ポル *Martí i Pol, Miquel* (1929-2003) 290
マルティネス・シエラ *Martínez Sierra, Gregorio* (1881-1947) 20, 92, 93, 165
『架空の村』 *Aldea ilusoria* 93
マルティネス・シエラ夫妻 *el matrimonio Martínez Sierra: Lejárraga, María* (1874-1974)
85, 87, 88

ミ

- ミン *Min, Yong-Tae* (1943-) 8, 173, 175, 255
「ロルカ、東洋の詩人」 *Lorca, poeta oriental* 8
民衆百科文化協会 *l'Ateneu Enciclopèdic Popular* 277

ム

- ムダルニズマ(近代主義) 260, 262, 263, 284

メ

- メートル *Maitre, Claude Eugène* (1876-1925) 227
『メセタ』 *Meseta* 217
『メディオディア』 *Mediodía* 217
『メルキュール・ド・フランス』 *Mercur de France* (『メルキュール』)
15, 16, 18, 19, 39, 40, 41, 86, 92
メルキュール派 79

モ

- モーツアルト *Mozart, Wolfgang Amadeus* (1756-1791) 264
モダニズム 157

モデルニスモ(モダニズム) 7, 14, 16, 38, 39, 53, 85, 94, 163, 233~6, 244, 255
 モレアス Moréas, Jean(1856-1910) 54, 86
 モレノ・ビリャ Moreno Villa, José(1887-1955)
 155, 175, 180, 184, 186~8, 201, 204, 211, 214, 216, 226, 235, 256
 モロー Moreau, Gustave(1826-1898) 10
 モントリウ Montoliu, Manuel de(1877-1961) 21

ヤ

山崎宗鑑(1465頃-1553頃) 17, 41, 68, 90, 272

ヨ

与謝野晶子(1878-1942) 47
 与謝蕪村(1716-1784) 91, 119, 262

ラ

ラヴェル Ravel, Joseph-Maurice(1875-1937) 177
 『ラ・エスパーニャ・モデルナ』 *La España Moderna* 34, 35, 50, 79
 『ラ・ガセタ・リテラリア』 *La Gaceta Literaria* 202
 『ラ・グランド・ルヴュー』 *La Grande Revue* 18
 『羅針盤』 *La rosa de los vientos* 114
 「ラテンアメリカの新しい詩」 245
 『ラ・ナシオン』 *La Nación* 163
 『ラ・パルマ』 *La Palma* 93
 ラファエロ Santi, Raffaello(1483-1520) 264
 ラフカディオ・ハーン Lafcadio Hearn, Patrick(1850-1904) 46
 『怪談』 *Kwaidan* 46
 『ラ・プブリシダ』 *La Publicidad* 268
 『ラ・プルマ』 *La Pluma* 64, 154, 175, 187, 202~5, 225, 228
 『ラ・ボス』 *La Voz* 228
 ラメレッシ Lamairesse, Pierre-Eugène(1817-1898) 50
 『日本——歴史、宗教、文化——』 50
 ラモン・イ・カハール Ramón y Cajal, Santiago(1852-1934) 178
 ラランヌ Lalanne, Jean-Gaston(1862-1924) 163
 『ラ・レクトゥーラ』 *La Lectura* 201
 『ラ・レビスタ』 *La Revista* 277, 286

リ

リーバ Riba, Carles(1893-1959) 290
 リオン・ドール Lion d'Or 85
 『リトラル』 *Litoral* 210, 217
 リトラル・グループ grupo de Litoral 210

ル

- ルヴォン Revon, Michel(1867-1947) 40, 49, 119, 190, 121, 160, 200
『日本文学選集』 *Anthologie de la littérature japonaise des de origines au XXe siècle.*
49, 120, 121, 160, 191, 200
- ルエダ Rueda, Salvador(1857-1933) 85, 87, 162
- ルゴネス Lugones, Leopoldo(1874-1938) 162
- ル・コルビュジエ Le Corbusier(1887-1965) 177
- ルシニョル Rusiñol, Santiago(1861-1931) 20
- 『ルックス』 *Lux* 32
- ルナール Renard, Jules(1864-1910) 40
- 『ルバイヤート』 *Rubaiyyat* 210
- ルビオ・ヒメネス Rubio Jiménez, Jesús(1953-) 8, 47, 49, 51, 54, 65, 254, 255
「俳句の普及——ディエス＝カネドと雑誌『エスパーニャ』——」 *La difusión del haiku : Díez-Canedo y la revista España* 8

レ

- レイナ Reina, Manuel(1856-1905) 162
- レイナル Raynal, Maurice(1884-1954) 285
- 『レ・ゼエクリ・ヌーヴォー』 *Les Ecrits Nouveaux* 173
- レデル Redel, Enrique(1872-1909) 162
- 『レナシメント』 *Renacimiento* 40, 93, 201
- 『レビスタ・クリニカ』 *Revista Crínica* 201
- 『レビスタ・デ・オクシデンテ』 *Revista de Occidente* 35, 64, 202, 203
- 『レ・レットル』 *Les Lettres* 19, 20, 25, 31, 227

ロ

- ローランサン Laurencin, Marie(1883-1956) 247
- 『ロス・キホーテス』 *Los Quijotes* 244
- 『ロス・ミセラブレス』 *Los Miserables* 277
- ロドー Rodó, José Enrique(1871-1917) 93
- ロドリゲス＝イスキエルド Rodríguez-Izquierdo, Fernando(1937-) 7, 47
『日本の俳句』 *El Haiku Japonés* 7, 47
- ロベス＝ピコー López-Picó, José Maria[Josep Maria](1886-1959) 20
『トゥルメン・フルメン』 *Turment-froment* 20
- ロマン主義 150, 233, 260, 268, 284
- ロマンセ 38, 53, 77, 82, 89, 114, 140, 156, 162, 211
- ロメロ・デ・トーレス Romero de Torres, Julio (1874-1930) 247
- ロルカ→ガルシア・ロルカ(フェデリコ)
- 『ロンセル』 *Ronsel* 256

ワ

- ワイルド Wilde, Oscar(1854-1900) 54